ぎんてけ

Vol,32　No.1
2015.JUN

発　行一般社団法人 秋田県作業療法士会　ホームページ http://akita-ot.jpn.org/
会　長高橋　敏弘
編　集一般社団法人 秋田県作業療法士会広報部
〒018-5421　秋田県鹿角市十和田大湯字湯ノ岱 16-2
大湯リハビリ温泉病院　　作業療法室・水原　寛
TEL 0186-37-3511　FAX 0186-37-3483
E-mail a-ot-kouhou@par.odn.ne.jp
事務局〒010-0041　秋田県秋田市広面字屋敷田 25-2 セジュールエスト 105 号
TEL/FAX 018-837-0552
E-mail has80970@snow.odn.ne.jp
秋田県作業療法士会　**印刷**　川嶋印刷株式会社

―秋田県作業療法士会 30 周年事業記念式典挨拶―

会長　高橋　敏弘

平成27年1月25日（日）に秋田市のキャッスルホテルを会場に一般社団法人秋田県作業療法士会創立30周年事業を執り行いました。当日は御来賓、会員合わせて160名を超える方々にご参加いただくことができました。短い準備期間で大変でしたが、実行委員はじめ県士会員の皆様ご協力ありがとうございました。

当日参加できなかった会員もいますので、巻頭言に変えて式典での挨拶を掲載いたします。ごく簡単にですがこれまでの歴史を振り返ることもできますのでお読みいただければ幸いです。

秋田県作業療法士会創立30周年記念式典をこのように盛大に開催できますことを、会員を代表いたしまして心より感謝申し上げます。本会は平成23年4月から一般社団法人秋田県作業療法士会となりましたことをこの場におきまして、改めてご報告させていただきます。

また秋田県、秋田市・秋田県医師会、日本作業療法士協会をはじめ、今日まで秋田県作業療法士会の発展のためにご協力・ご尽力を賜りました行政関係・関連団体各位の皆様、ご多忙の中、ご臨席いただき厚く御礼申し上げます。

さらに、都道府県作業療法士会連絡協議会会長および東北各県の作業療法士会の代表の方々にもご臨席いただいております。東日本大震災の復興が遅れているというニュースを見るたびに心を痛めておりますが、被災された皆様に心からお見舞い申し上げますと共に、一日も早い復旧・復興をお祈り申し上げます。

本日創立30周年式典を開催するにあたり、作業療法の発展に格別のご尽力をいただいた功労者の皆様に感謝し、表彰申し上げる機会を得ましたことは、心から喜びとするところでございます。

表彰に続いては日本作業療法士会会長中村春基様にご講演を賜りますが、テーマが「活動、参加を表現する作業療法」と、まさにこれからの地域包括ケアシステムにおける作業療法のあり方をご教示いただけるものと思います。

祝賀会では日頃お世話になっている方々、久しぶりにお目にかかる方々との交流を深めていただ

き、本会へのご意見なども拝聴して、今後の参考になればと思っております。

さて、秋田県の作業療法士の歴史は、昭和 42 年の第 2 回国家試験に当時、秋田回生会病院に勤務されていた佐藤不二男氏が合格、翌年公立横手病院の佐藤順一氏が第 3 回国家試験に合格されたところから始まっております。その後、県外の養成校を卒業された作業療法士が秋田県で勤務するようになりましたが、当時は全国的に養成校の数も少なく、県内でも作業療法士を雇用する職場は非常に少ない状況の中、先輩諸氏の歩んでこられた道のりは決して平坦なものではなかったと思います。言葉では言い表せないような苦労もなさった事と思います。

秋田県作業療法士会の前身として昭和 51 年に日本作業療法士協会東北地区連絡会秋田県支部が発足、昭和 54 年に地区連絡会が東北支部となり、当時の東北支部の会員は 44 名であったと聞いております。

秋田県作業療法士会は昭和 58 年、秋田県下の作業療法士 19 名により設立総会を開催し、初代会長に進藤図南美氏が就任され、最初の一歩が踏み出されました。その後、願法清子氏、長久保克郎氏の歴代会長がご活躍された当時は、まだ県内に作業療法士の養成校がなく、他県で学んだ作業療法士が秋田県に戻ってくることに頼らざるを得ない状況が続いていました。

平成 2 年に秋田大学医療技術短期大学部が開設し、その卒業生が秋田に残ることによって秋田県の作業療法士数は大きく伸びていきました。平成 5 年の 10 周年にはわずか 48 名だった会員数が、平成 15 年の 20 周年には 241 名、そして現在は 508 名と、ようやく今年度、念願の会員数 500 名を超えることができました。この 508 名の会員は県内の 130 の施設で、身体障害系の病院に約 5 割、老健施設に約 3 割、次いで精神科病院に 1.5 割、その他特養や訪問看護ステーションなどに勤務しております。職能団体としては、まだまだ会員数も少なく微力ではございますが、この 30 年の間、当士会は確実に足跡を残して前進してまいりました。

昭和 61 年には秋田県作業療法士会会誌を創刊しています。その後も士会ニュースの発行をはじめ、学術面では平成 4 年から毎年秋田県作業療法学会を開催し、平成 5 年、11 年、17 年、22 年に東北作業療法学会を開催しております。平成 6 年には当時の秋田大学医療技術短期大学部教授山田孝氏を学会長として秋田市文化会館を会場に、第 28 回日本作業療法学会を開催し、昨年の平成 26 年には日本作業療法士協会全国研修会を開催いたしました。また作業療法の普及啓発のためのパンフレットの作成、一般県民を対象とした作業療法フェスタの開催、平成 20 年からは鹿角市の「かづの元気フェスタ」で作業療法士のブースの展示を行っています。また毎年 8 月から 9 月の作業療法月間には主に高校生を対象とした作業療法の職場見学や進路相談に取り組んでまいりました。また、秋田県理学療法士会、秋田県言語聴覚士会と協力し、秋田市の健康フォーラムへのブース展示なども行っております。

他にも、介護認定審査会委員、障害支援区分認定審査会委員の派遣など市町村の要請に可能な限り応えてまいりました

さて30周年を迎え、会は少しずつ前へ前へと進んでいますが、これからの10年、20年が今まで以上に大切なものとなってきます。団塊の世代が75歳以上の後期高齢者になる2025年に向けた地域包括ケアシステムの構築、増え続ける認知症、深刻な少子高齢化等これらの問題に対して作業療法士は何ができるのか、何をすべきかを一人一人が従来の発想や考え方にとらわれず、新しい作業療法のあり方を考え、実践していかなくてはなりません。そのキーワードは本日の講演のタイトルにある「活動と参加」だと思います。

今後さらに会が発展すべく、まず会員の質の向上に努め、秋田県民の皆様にサービスの提供を行い、保健・医療・福祉の向上のために全力をあげて参る所存であります。本日の記念式典が、これまでの歩みを振り返り、今後の発展を目指す新たなスタートとなることを念じております。

最後に、皆様のご健勝とご発展を祈念するとともに、今後も本会に対してご支援を賜りますようにお願いして挨拶といたします。

学会記　第 24 回秋田県作業療法学会を終えて

介護老人保健施設ふれ愛の里　齊藤　明子

4 月 18 日（土）に行われた秋田県作業療法学会は、秋田テルサにおいて 198 名の士会員に参加していただき、無事に日程を終えることができました。皆様のご協力に感謝いたします。

気が重いながらも、学会長を引き受けた私が最初にやらなければならなかったことは、学会長となることを自分に納得させることでした。“この歳まで県士会の恩恵にあずかってばかりいたんだから、少しは活動に貢献しなさいということなんだな”とか、“県士会活動に不真面目な私への罰か？”とか、“年配者がいつまでも逃げていては年下の士会員に示しがつかないんだろうな”とか…。何とか気持ちを前に向け、実際に動き始めると、様々な人達の協力が、何とありがたかったことか。周りの積極性に感心し、頼もしさを感じました。

学会準備は、まず会場の確保と特別講演講師の依頼とのこと。会場はすぐに決まったものの、問題は特別講演です。自分の興味のある内容をいくつか挙げ、学会長である千田先生に相談しながら調べたところ、以前やっていることだったり、適当な講師が見つからなかったり、かなりの費用がかかり論外であったり。人脈のない私に、講師が探せるのか不安でしたが、なんと専門学校時代の同級生の中に、全国を講演して回っている OT がいたのです。それが、がんのリハビリに携わっている千葉県立保健医療大学の安部先生でした。安部先生の講演であれば、今までにない内容で、興味深いお話を聴けるのではということで依頼し、引き受けていただきました。

特別講演の内容は専門的で、難しい話も多かったですが、皆さんはどう受け止めてくれたでしょうか？秋田県だけではなく、全国的に見ても、がんのリハビリテーションを積極的に行っているところは少ないということで、皆さんに知って欲しい、これから OT もどんどん関わって欲しいという、安部先生の思いが伝わってきました。学会の翌日、観光案内をしながら、ゆっくりと色々な話をしました。安部先生は、精神科部門で長く働いた後、がんセンターに勤めたそうです。初めてがん患者に接した時、“自分は何もできない、何をしたらいいんだ？”と悩んだエピソードも多かったようです。逃げずに時間をかけて学び、真摯に仕事に向き合ってきたからこその現在の姿なのだ、と改めて感じました。新たな分野で頑張る人たちも増えていますし、そのような話も皆さんに話して欲しかったと思いましたが、後の祭りですね。

一般演題は 13 題。“エビデンスに基づく治療”には重要な基礎研究、最近盛んに目にする“活動と参加”“看取り”“認知症”等のキーワードに沿った演題、新たな分野で活躍する OT の活動報告など様々な発表がありました。毎年若い士会員の発表が多く、まずは県学会でと思っていただけているのでしょう。気軽に発表できる場であるとはいえ、査読もありますし、忙しい業務の中で資料を集め、成果をまとめ、原稿を作ることは大変なことです。また、それを支え指導する先輩や先生方の力も欠かせません。発表に関わった皆様、ありがとうございました。座長の皆様には、抄録を

熟読し準備していただいたおかげで、活発な質疑応答がありながらもスムーズな進行がなされ、予定通りに各セッションを終えることができました。ありがとうございました。

学会が終わった途端、私に平穏な日々が戻ってきました。介護報酬改定に右往左往しながらも、地道にコツコツ仕事をしています。私に表舞台は似合わないと改めて思いましたが、二度とできない貴重な経験をさせていただき、たくさんの事を学べたことに感謝しています。これからも縁の下で人知れず皆様のお力になれたらと思っています。

ここで一番感謝したい人達に一言。実行委員の皆様、本当にありがとうございました。皆様の精神的支えと働きなくして私は動けず、進むことができませんでした。

一つ余談。認知症予防フォーラムで脳科学者の茂木健一郎先生の講演を聴いてきました。「脳のアンチエイジングのためにはドーパミンが大切。ドーパミンを出すためには初めてのことに挑戦することが一番。ムチャ振りに応えましょう。」と繰り返しおっしゃっていました。学会長というムチャ振りに応えた昨年からの私の脳は、今までになくドーパミンが排出され若返ったに違いありません。

来年の学会は、大湯リハビリ温泉病院の水原寛学会長のもと、県北を会場に開催される予定です。多くの士会員が何らかの形で学会に関わり、活気ある学会となるよう願っています。

印象記　第 24 回秋田作業療法学会に参加して

大湯リハビリ温泉病院　菊池　陽介

鹿角市の大湯リハビリ温泉病院で作業療法士をしております、菊池陽介と申します。早いもので臨床 6 年目を迎え、ついに私も執筆の機会をいただきましたので、4 月 18 日に行われました、第 24 回秋田県作業療法学会に参加しての感想を書いてみたいと思います。

今回の学会は、一日開催ながら 13 の一般演題、特別講演に定期総会と、非常に密度の濃い充実した内容でした。市立横手病院の加賀直之先生の演題「第 5 頸髄損傷者に対する食事動作を経験して - 意欲の低下を伴う症例 - 」は、私もちょうど最近、頸髄損傷の方の食事動作に関わる機会があったため興味深く聞かせていただきました。受傷早期における座位の不安定性、精神面での不安定さ、万能カフへのスプーンの固定性の難しさ、スプーンですくいとる動作の難しさ、疲労の訴え等、まさに自分が経験した困難さとも重なることが多く、都度共感しながら聞き入っていました。そんな中でも、ポータブルスプリングバランサーを用いて食事動作の自力摂取が可能となり、前向きで意欲的な姿勢に変わっていったとのことで、良い関わりをされたのだなと思うと同時に、自分の治療を省みることが出来ました。また、中通リハビリテーション病院の湊洋太先生の演題「大切な調理という生活行為を通じ、もう一度自分らしく歩み始めた事例～生活行為向上マネジメントを用いて～」も大変引き込まれる内容でした。初回面接で「もう生きている意味がない」と話すなど精神的な落ち込みがあり、活動性も低下していた症例に対し、興味・関心チェックシートの「料理」というキーワードから、「食堂を切り盛りし」「自分の料理を喜んでもらえることが何より嬉しかった」という生活背景を引き出し、「自分で作った料理を病院職員に振る舞う」という目標を症例と共有し、

作業療法を展開されていました。アプローチとしては身体機能面への直接的介入、環境調整等も行った上で、調理という対象者にとって大切な生活行為に焦点を当てた介入を行い、結果として実行度・満足度が大きく向上、自宅退院が実現したという内容でした。生活行為向上マネジメントを用いることで、症例ご本人にとって本当に大切なことが見えてきて、その方を本当の意味で包括的に支援することができ、主観的な満足度の向上にもつなげることが可能となることを改めて認識しました。

特別講演では、「がん患者に対するリハビリテーションの展開－作業療法士への期待」というテーマで、千葉県立保健医療大学健康科学部リハビリテーション科准教授の阿部能成先生にご講演いただきました。先生の講演を聞いて、がんを取り巻く状況は変化してきているということをまずは理解する必要があると感じました。例えば、悪性新生物は日本人の死因の第一位であり、がんは「死に至る病」としてのイメージが定着していますが、今日では全癌腫平均の相対５年生存率は66.3%にまで上がってきているとのことでした。また、緩和ケアのWHOモデルも変化しており、「がん治療か、ターミナルか」という今までの考え方から、早期からがん治療と並行して緩和医療を進めるという考え方になってきているとのお話がありました。さらに、緩和ケアの対象症状の一つである苦痛（pain）を身体的・精神的・社会的・スピリチュアルの４つの側面から把握するというトータル・ペインの考え方を挙げ、「作業療法士はそのいずれの側面からもアプローチ可能な介入手段を持っている点で、がんリハビリテーションを担当する素地がある」とおっしゃっていました。しかし、現在のがんに関する作業療法の文献は他の療法等に比べてはるかに少なく、今後はもっと作業療法士ががんに関する知識を得て、がんのリハビリテーションに積極的に関わっていく必要性があり、また作業療法はその可能性を秘めているのだというメッセージをいただいたように感じました。

本学会に参加して様々な知識や考え方に触れ、自分の臨床実践はまだまだ偏った知識や考え方の中で行っていると痛感しました。もっと幅広い視点から物事を見られるように、例えば自分が普段参加していないような研修会にも思い切って参加してみたり、プライベートでもやったことのないものにチャレンジしたりと、セラピストとして、人としての幅を広げていきたいと強く感じました。

印象記　第24回秋田県作業療法学会
―参加をする意味・発表をする意味―

介護老人保健施設あいぜん苑　長谷川　由美子

今年の学会も非常に天気に恵まれ、爽やかに終えることができました。学会会場から懇親会会場まで、ナビを使用したものの、道に迷いました。しかし、そのおかげで、川沿いの満開の桜を眺めながら、ふと季節を感じる時間を持つことができ、学会を終えた安心感と満足感に浸らせてくれる時間にもなりました。

当施設では、第18回学会から演題発表を、ほぼ毎年続けさせていただいております。その目的は、年度のリハビリ部門内目標に掲げているということもありますが、「まとめる作業」を重視しているからです。月に１回の事例検討会に始まり、困難事例や特徴的な事例は必ずまとめ、互いに学び合うことを実践しています。初年度の、新人にとっての苦痛は計り知れず、また日々の業務の中で「まとめる作業」に費やす時間の確保は難儀なものと思います。しかし、率先して「次は僕がや

ります」と手を挙げてくれる後輩、突出した知識量を持ち指導してくれる後輩の存在と、とても恵まれた環境の中、「まとめる作業」の先にある「学会発表」といった、自然な流れになっているように思えます。学会で発表をする意味、それは個々によってはやや異なるかもしれませんが、自分がステップアップする過程で必要な機会を自分で掴む、ということなのかもしれません。と、個人的には思っています。

学会に参加をする意味は、会員の皆さんはどのように捉えていますか。私は案外、帰属感が強い方のようで、そういった意味も持っています。また、経験年数を重ねる度に「確認と内省」の意味合いが強くなってきました。職場での立場上、自己決定機会が増えてきます。「これでいいんだろうか…」と内面では思いながら、いろいろなことに携わらせていただいています。一方で、「よし、やり遂げた！」「ここまでやれば十分だろう！」と、もしかしたら「自己満足」や「慢心」を持っている一面もあります。この両方の両極端の自分の「確認と内省」です。演題の内容やその際の質疑応答のやりとり、諸先輩方との雑談が私にとっての「確認と内省」の機会であり、学会に参加する意味でもあります。近年はなかなか他の学会に参加する機会を持つことができていないのですが、私にとってはこの「秋田県作業療法学会」が原点でもあり、通過点でもあり、いろいろな意味での最終目標でもあるように、最近感じるようになっております。

最後に、今回の学会では、実行委員の役割に携わらせていただく機会をいただきました。参加人数が年々増え、規模が大きくなる中、参加人数の取りまとめや受付業務全般に携わりました。初めてのことでしたが、学会長、実行委員長の的確かつ丁寧なご指示のもと、無事終えることができ、発表以上の満足感でした。物事を計画的に進めるということは、組織の中で働くのには必要不可欠であり、この経験は今後の職場での業務に必ず役立つものと思います。このような機会を与えてくださり、本当にありがとうございました。

毎年のことですが、学会は楽しいです。発表も楽しいです。5 回目の発表で、「長谷川、発表の時に訛らなくなったな～」と褒めていただいたことが、今年の私の成長でした。

「三匹のおっさん」

書評

著者：有川　浩　　出版：文春文庫
価格：750 円(税込)　　433 項

市立横手病院　加賀　直之

この本の著者の有川さんは、「図書館戦争」や「フリーター、家を買う」等、最近よく耳にしたことがある作品を執筆しており話題を集めています。この「三匹のおっさん」も人気の 1 つで、最近はパート 2 も出るほど人気が出てきているため、皆さんに紹介したいと思います。

題名の如く、3 人のおっさん達が主人公の物語であり、還暦を迎えて自警団を結成します。町内のありとあらゆる事件を解決していくドタバタ劇を描いています。剣道の達人・キヨ、柔道の達人・

シゲ、頭脳派・ノリの３人がそれぞれの特技を生かして悪に立ち向かっていく姿は、とても痛快であり、面白く感じました。その事件というものが、実際身の回りで起こりそうな内容なので、自然と親しみやすかったです。また、それぞれの家族の人間模様も描かれており、「始めはどうなるだろう？」と感じながら読み進めていくと最後には「良かった」と思えるような表現の似合う終わり方でした。普段、小説を読むことがなかった自分が、１日ですんなりと読めたのはとても驚きです。是非読んでいただきたいと思います。

自分がおっさんになったら何をしているのか？とこの本を読んでふと思いましたが、今では考えもつきません。今後は定年を迎えても満足な収入が得られるのか、年金で暮らしていくことができるのかと先を考えると、とても不安になってしまいます。今後ますます高齢化が進み、人口も減っていく中で考えさせられることがいっぱいあります。しかし、自分は生まれ育った横手で困っている方の恩返しをしたいと日々思い、作業療法士を続けています。本の中にも出てきますが、高齢者や独居の方はふれあいを欲しているという文章がとても印象に残っていて、そのための地域コミュニティーの場を設ける場面がでてきます。これは作業療法士の活躍する場面と似ている所もあり、とても共感しました。今後歳を重ねるにつれて、何かしら地域と関わりをもっていくことのできる「おっさん」になることができれば良いと感じました。何歳からおっさんになるかはわかりませんが（笑）最後まで読んでいただきありがとうございました。

シリーズ「作業療法と生活考」NO.60

待ち時間

秋田大学医学部保健学科　　金城　正治

先日，パソコンを操作していて，フリーズ（反応しない）を起こし，キーボードからの操作を全く受け付けなかった．そこで，急いでプリントアウトする必要があったので，強制終了を試みたが反応しなかったので電源スイッチを切った．そして，再度電源スイッチを入れたが，パソコンはまったく起動しなくなった．ここで，「しまった」との感情と，パソコンの利用期間も４年が過ぎていたので「パソコンの買い替えかな」「少し面倒だなあ」と考えが浮かんできた．それから他の用事もあったので，３時間ほどしてから再度起動すると心配を裏腹に，何事もなく起動した．

後で考えてみると，私自身のせっかちな性格と，パソコン復旧操作でパソコン自体の反応を確認してなかったのではないか．また，すぐに電源スイッチが早かったのではないかなどが考えられた．電源が切れてすぐに電源を入れると、誘導電流の原理で一瞬高電圧が発生し、機器を痛める可能性もあるので，ひと呼吸おいてからの再起動が望ましいともある．しかし，一番の問題は，パソコンからの反応を待たなかったのが要因だと思われた．自分の取った行動が，自分の中の時間軸で動いてしまったことである．待つ余裕がなかったのである．

同じことがＣＤの操作でもある．プレーヤーにCDを入れて，再生ボタンをすぐに押しても再生されない．プレーヤーの反応にも時間が必要である．その時間はほんの数秒であるにも関わらず，連続してスイッチを押してしまう．

我々の臨床においても，セラピストの時間と患者やケースの時間の流れは違うのでないか．彼らは，我々よりも少し時間の流れがゆっくり流れていることが多い．移乗介助でも彼らの動きを感じ

て，手伝っているのだろうか．自分の時間で，彼らの反応を待たないで全介助に近い速さで行っていることもある．一人一人の時間があることを理解することが大切なような気がする．お互いとのインタラクションを意識することが必要である．

最近は，時間においては，効率性が要求され，時間管理の重要性，時間を無駄にしないなどが強調され，時間に囚われることも多い．皆さん方は１日に時計を何回見ているのであろうか．時間管理術に関する本も本屋さんには多く見かけ，重要なテーマである．このシリーズの「No.54 手帳を手段としての生活づくり」でも時間管理について述べたことがある．時間管理は生き方にもつながる．

物理的な時間は決まっているが，心理的時間や生活的時間は多様性がある．よって待ち時間も大切になる．ただ単に待つのでは，イライラする，疲れる，苦痛などのネガティブの反応や感情を持つことが多い．そこで，待ち時間に意味を見出す，待ち時間への配慮が必要になると思われる．

待ち時間に意味を見出すことは,考えるだけでない,自分の感性に従ってぼーっとするのもよい．何かしなればならないと囚われると，また窮屈になってくる．相手がいる場合の待ち時間への対応は，情報を知らせる，その時間の対策．コミュニケーションが重要となってくる．これらが不十分だと苦情，クレームになる可能性があり，心理的にもよくない．待つ時間の情報が分かっているとこちらも対応がしやすい．一番大事なのは，お互いに時間軸があるのを理解し，共感することである．そして，相手に自分の時間を押し付けない，時間を共有する場合にはこちらもそれなりの覚悟をもっておくことである．

職場紹介

介護老人保健施設　西風苑　高橋　真弓

横手市平鹿町浅舞の長閑な田園風景の中にある、温かな味のある黄色の建物が、介護老人保健施設西風苑です。当苑は入所 100 床、通所は一日約 30 名の方にご利用いただいております。入所の内訳は一般棟が 60 床、認知症病棟が 40 床となっており、恵風・陽風・光風とフロア名が付けられ、それぞれ家庭的な雰囲気作りを心掛けております。リハビリスタッフは、常勤 OT が 7 名、PT2 名で、昨年より ST1 名が非常勤で勤務しています。リハビリ室は、日当たりのよい吹き抜けの広い場所にあり、大きな窓からは正面に鳥海山、裾には田んぼが広がり、春には苑の桜や田植え風景、夏は青々とした稲、秋は黄金色の稲穂、冬は真っ白な鳥海山と、季節の移り変わりを堪能できる苑の一等地に位置しています。特に鳥海山は美しく、『富士山』と間違えるご利用者の気持ちも解る程です。リハスタッフはそんな風景を見ながら、季節の話題やローカルな話題を盛り込み、個別訓練やフロアごとの集団療法(体操やレクリエーション・カラオケや音楽鑑賞)、他スタッフと共に趣味的活動を主体としたクラブ活動を実施し、充実感を持ち、活き活きと生活出来る様支援しております。中でも日々の訓練でポイントをため、それを使って楽しむ場として作った「おたっしゃクラブ」は、自主参加型の活動として生活意欲の向上に一役担っています。ST は、失語症や嚥下障害のあるご利用者のアセスメントから機能訓練を担当し、コミュニケーション能力や、より安全な食事摂取を歯科衛生士や管理栄養士と共に支援しています。嚥下の問題を抱えているご利用者が少なくなく、専門職が関わる事の重要性を認識しています。通所リハビリでは、送迎介助業務へも参加し、ご家

族からの情報収集や自宅内の動作を日々確認する事により、より自宅内の生活にそったリハビリが提供できるよう意識しております。また、調理動作訓練や買い物などの外出動作も、他職種と連携を図りながら和気あいあいと訓練をすすめております。職員サイドからは、建物続きで託児所もあり、新米ママ・パパには優しい施設です。昨年、西風苑は10周年を迎え、これまでの業務の見直しから、今後老健としてどうあるべきかを考えさせられる良い機会となりました。介護者となるご家族や地域との連携を図りながら、在宅復帰をどう目指していくかが大きな課題となっています。皆さんのご意見もお聞かせ頂きたく、是非おざってたんせ。

編集後記

新年度に入り早いもので、もう２ヶ月が経ちました。今年、当院では２名新人が入り、２人の姿を見ると初々しく、自分もあんな頃があったなあ~と、しみじみ思います。今では、先輩方を尊敬しつつも、イジれるくらい図太くなったものです（笑）私自身、今年から兼務として通所リハビリにも携わり、そろそろ半年が経とうとしています。最近では天気の良い日が続き、冬期間に比べると活発的に過ごされる利用者様が増えてきました。利用者様の話を聞くと、独自で工夫して生活され、出来ないだろうと想定した事であっても、それをやっているという事実を知るたびに、驚かされるばかりです。利用者様からすれば、「先生」として見られる立場でありますが、逆に私自身が利用者様から教わることが多く、今までとは違った視点で、回復期リハビリへも携わっております。新たな環境に慣れるまで不安でいっぱいでしたが、今思うと、新たな発見が見つかれば、また新たな悩みも増えたりと…考え方によって、このような環境にいられることが、ホントにありがたいなと思う今日この頃であります…。

編集担当(yu-min)

研修会のご案内

日本心理教育・家族教室ネットワーク主催
「標準版家族心理教育研修会 in 秋田　2015」

日時：平成27年9月5日（土）、6日（日）
会場：にぎわい交流館AU（あう）4階　研修室1
対象者：心理教育の初級者（職種・経験不問、2日間参加できる方）　定員：40名程度
参加費：8000円
講師：日本心理教育・家族教室ネットワーク認定家族心理教育インストラクター

※詳細は、「日本心理教育・家族教室ネットワーク」のホームページをご確認下さい。

広報部から

・会員異動の際は，お早めにお知らせください．

県士会ニュース「きりたんぽ」では会員の異動情報(新規入会・退会含む)を取り扱っております．正確な情報をお届けできるように，広報部一同，これからも頑張っていきますので，異動の際はお早めにお知らせください．連絡先は事務局メールアドレス has80970@snow.odn.ne.jp です．ご協力よろしくお願い致します．

・研修会情報をお知らせしております．

余白を有効活用して，県内で開催される講習会・研修会情報を公開しております．院内での小さな勉強会でも構いません．「他の病院から参加者を募り，実りある研修にしたい」「情報交換をしてお互いの技術や知識を高めたい」その想いが秋田の作業療法を発展させます．みんなで秋田を盛り上げていきましょう．情報お待ちしております．宛先はこちら a-ot-kouhou@par.odn.ne.jp

リハビリテーション機器・生体現象測定装置等販売

高度管理医療機器販売事業 04-000026 号　有限会社バイオテック

代表取締役　飯塚清美

〒010-0041　秋田市広面字碇 80-1　　TEL018-837-0161　FAX018-837-0162

（一社）日本義肢協会登録
東北　101 号

株式会社
千秋義肢製作所

義手・義足・装具・車椅子
リハビリ用品

秋田市新屋豊町　　1－22
TEL 018－823－3380
FAX 018－862－5126
http://www.sensyu-gishi.co.jp

SAKAImed
立位移動補助具 アクティーモ NR
actimoNR
早期活動を促す
新しいリハビリテーション
脳卒中発症後早期の方でも、下肢・体幹を支持保持して安全に立位姿勢を保てる設計で、早期からの立位・移動リハビリテーションに最適です。

お問い合わせ先
酒井医療株式会社
www.sakaimed.co.jp
東北支店 盛岡営業所
（青森・秋田・岩手エリア担当）
TEL：019-656-5336
東北支店 仙台営業所
（宮城・山形エリア担当）
TEL：022-390-6840
仙台営業所 郡山オフィス
（福島エリア担当）
TEL：024-927-0231